# 最終試験結果の要旨

| | |
|---|---|
| 学位申請者<br>氏　　名 | 呉　思遠 |
| 審査委員 | 主査　鹿児島大学　教授　　白石　光也 |
| | 副査　山口大学　　教授　　佐藤　晃一 |
| | 副査　鹿児島大学　准教授　宇野　泰広 |
| | 副査　鹿児島大学　教授　　浅野　淳 |
| | 副査　鹿児島大学　准教授　小尾　岳士 |
| 実施年月日 | 令和　6　年　1月　19日 |
| 試験方法（該当のものを○で囲むこと。） | (口答)・筆答 |

最終試験において、申請者によるプレゼンテーションおよび質疑応答が行われた。

プレゼンテーション資料は、序論、第１章：ニワトリ脳底動脈の特徴、第２章：アイガモ脳底動脈の特徴、結論および重要性からなる。序論では脳底動脈、動物の進化、動物種差、及びこれまでに報告されている血管反応性について、テキストとイラストが適度な配分で用いられ視覚的に理解できるよう作成されており、また実験の目的が明確に示されていた。第１章および第２章では学位論文の基礎となる学術論文の図表を用いて、ニワトリおよびアイガモの血管反応性の特徴が説明され、結論および重要性では、この２種類の血管反応の違いが、高病原性トリインフルエンザに対する致死率での差に影響している可能性が論じられた。資料全体において、文字の大きさ、図の見やすさなども工夫・配慮がなされており、発表内容を理解するための情報が過不足なく準備されていた。

プレゼンテーションはそれぞれの章ごと、審査員およびその他の聴衆に対して分かり易く、適切なスライド枚数および速さで丁寧かつ十分に説明が行われた。また、発表時間も定められた時間内で行われた。

各審査員からの質問に対し、申請者は質問のポイントを正しく理解し、本人がこれまでに得た実験結果と参考文献等で得た知識の両面から的確な回答を選択していた。審査員からは多くの質問があったが、申請者からは適切かつ納得できる回答が得られ、十分な議論が行われた。また、関連する報告や知見が少ない質問に対しても、適切な回答ができるよう努力する真摯な態度が認められた。

申請者は本学位論文において鳥類であるニワトリおよびアイガモを使用しているが、いずれもと殺後の使用に相当するため、動物実験としての届け出は不必要であった。しかしながら、いずれの研究も鹿児島大学動物実験指針に沿って適切に研究を遂行されていたことから、申請者は研究倫理についても十分に理解し遵守していると判断した。

以上により、申請者は鹿児島大学大学院共同獣医学研究科博士課程修了者としての学力及び識見を有すると認め、博士（獣医学）の学位を与えるに十分な資格を有すると審査員全員一致で判定した。